

# 東北地方の宮城県ならびに近隣諸県のアリヅカムシ相 (ハネカクシ科, アリヅカムシ亜科) に関する資料

野村周平

国立科学博物館動物研究部 (nomura@kahaku.o.jp)

## Notes on the Pselaphine Fauna (Staphylinidae, Pselaphinae) of Miyagi Prefecture and Its Adjacent Prefectures in the Tohoku District, Honshu, Japan

Shûhei NOMURA

Abstract. Distributional records of the pselaphine fauna in Miyagi Prefecture and its adjacent areas in Tohoku District are revised. Thirty-five species were listed up from Miyagi Prefecture. Each one species from Aomori and Akita Prefectures, and six species from Iwate Prefecture were newly recorded.

### 1. 緒言

東北地方のアリヅカムシ相に関するデータは少ない。ハネカクシ談話会ホームページに掲載の「アジアのアリヅカムシデータバンク」では、福島県と山形県のリストが掲載されている。それによると福島県が、2008年の段階で73種であり、山形県が、同じく2008年段階で50種である。東北地方は気候が冷涼で、アリヅカムシの種数は少ないと想定されることから、この2県の数字はある程度のレベルには達していると考えられる。しかし広大な東北地方の、他の4県のアリヅカムシ相が未解明である点、きわめて寂しい状況と言わざるを得ない。

宮城県からは、渡辺(1989)によって、17種のアリヅカムシがすでに記録されている。この報告は当時筆者がチェックしたものであり、筆者による採集記録も含まれているが、何しろ27年を経過したものであるため、学名が変わったりシノニムになったものがあって、再検討が必要であった。

筆者は最近、秋田県の尾崎俊寛氏、三重県の横関秀行氏、大阪府の伊藤主計氏から、東北地方産アリヅカムシの恵与を受けた。この中には、宮城県のレッドデータブックで「絶滅種」とされた、ダイコクアリヅカムシ(宮城県産)も含まれており、これを含め、未解明の東北4県のアリヅカムシ相解明の一助となるのではないかと考えられたので、学名和名の整理と共に、これらの標本の同定結果を示しておきたい。

以下では、最初に宮城県からの採集記録を総括し、その後、これまで宮城県内から記録された種のリストを付す。さらに、それ以外の3県については、県ごとのアリヅカムシの記録を列挙する。その県から初めて記録される種については種名の

後に\*印を付した。種の配列は分類順とする。採集データは、個体数+性別、採集場所(採集法)、採集日付、採集者の順で示す。採集者については、以下の通り略記し、それ以外は省略しない：I: 伊藤主計；O: 尾崎俊寛；Y: 横関秀行。

### 2. 宮城県産アリヅカムシの新たな採集記録

以下に、今回新たに追加された宮城県産アリヅカムシの採集記録を列挙する。新たな採集記録のあるものについては、既知種ならば既知の記録を示すが、既知記録のみの場合には、本項では示さず、次項で種名のみを掲載する。今回新たに宮城県のファウナに加わったものは、種名の後に\*印をつけて示す。

ムネトゲアリヅカムシ上族 *Batrisitae*

#### 1) アラメトゲアリヅカムシ *Batrisodes (Excavodes) stipes* (Sharp, 1874)\*

本県からすでに記録されているタカオトゲアリヅカムシ (*B. dorsalis* Jeannel, 1958) に似るが、頭胸部の粗大点刻は一樣ではなく、♂の触角第1節は膨大しない。タカオ同様、広葉樹林の落葉中に見られ、稀な種ではない。

<採集データ> 1♀, 仙台市太白区二口, 26. vi. 2010, O.

#### 2) ナガムネトゲアリヅカムシ *Batrisodellus longulus* (Jeannel, 1958)

渡辺(1989)で記録された本種は、属名および和名が上記のように変更されている(柴田ほか, 2013)。

<既知産地> 奥新川(渡辺, 1989)。

- <採集データ> 2♀, 蔵王賽の磯, 4. vi. 2015, Y.
- 3) ナスヒゲトムネトゲアリヅカムシ *Petaloscopus nasutus* Jeannel, 1958  
やや大型の頑丈なアリヅカムシで、関東から東北地方の太平洋側に分布する。渡辺 (1989) で記録された *P. ornatus* (Sharp) は、本種の誤同定である。真の *P. ornatus* は、長崎原産で、九州以外からは発見されていない。  
<既知産地> 馬の神山 (渡辺, 1989) “*Petaloscopus ornatus* (Sharp)”  
<採集データ> 1♂, 歌津町管の浜, 1. x. 2011, O.
- 4) ニセヒゲトムネトゲアリヅカムシ *Petaloscopus shirokanensis* Nomura, 2017\*  
前種によく似るが、♂の触角第1節の突起が非常に短く、さらに前頭部突起が屋根型の鋭い稜を有することで、容易に区別できる。従来、ヒゲトムネトゲアリヅカムシ *P. basicornis* (Sharp) と誤同定されてきたが、野村 (2010) によって整理され、真のヒゲトムネトゲは関東山地～富士・箱根地域にしか分布しないことが明らかになった。本種は東京都港区白金の国立科学博物館附属自然教育園から採集された1♂をホロタイプとして Nomura (2017) によって記載された。中部～関東～東南北部に広く分布し、里山の二次林から発見されることが多い。  
<採集データ> 1♂, 小野田町蓬萊山, 2. x. 2011, O.
- ※*Petaloscopus* sp.  
<採集データ> 1♀, 仙台市太白区二口, 11. vii. 2010, O.
- 5) フタアナムネトゲアリヅカムシ *Coryphomodes dionysius* (Schaufuss, 1888)  
大型の顕著な種で、マツなどの朽木から発見されることが多い。  
<既知産地> 奥新川, 蔵王山 (渡辺, 1989) “*Coryphomus spinicollis* (Sharp)”  
<採集データ> 1♀, 丸森町百々石公園, 24. iv. 2011, O.
- 6) ヒゲボソムネトゲアリヅカムシ? *Tribasodes longicornis* (Sharp, 1883)?  
渡辺 (1989) では、*T. longicornis* として記録されているが、今回該当の種の雄交尾器を検したところ、若干の違いが見られた。本種は九州から記載された種であり、種名を確定するためには、さらなる検討が必要である。  
<既知産地> 二口峡 (渡辺, 1989) “*Tribasodes longicornis* (Sharp)”  
<採集データ> 2♂, 山都町旗坂, 15. vi. 2013, O.
- 7) ガロアフサヒゲアリヅカムシ *Trisinus galloisi* (Jeannel, 1958)\*  
本州、四国に広く分布する普通種で、一般に森林や草原の落葉中から見つかる。  
<採集データ> 1♂1♀, 仙台市太白区二口, 11. vii. 2010, O; 2♂, 村田町相山公園, 12. x. 2013, O.
- 8) ラフレイフサヒゲアリヅカムシ *Trisinus raffrayi* (Jeannel, 1958)\*  
前種に似るが、♂の触角第9節の膨大部が顕著に横長であることと、後脚腿節の上面に切れ込みがあることで、同属の他種から容易に区別することができる。  
<採集データ> 1♂, 鳴瀬町野蒜海岸, 22. ix. 2013, O.
- ※*Trisinus* sp.  
<採集データ> 1♀, 大衡村牛野ダム, 14. x. 2013, O.
- 9) ホソハラクボアリヅカムシ *Batriscenellus (Batriscenellus) fragilis* (Sharp, 1883)\*  
本種は通常、河川敷などの草原の落葉中に発見されるもので、産地での個体数は多い。  
<採集データ> 1♂, 中田町嶺カジ山, 3. iv. 2010, O.
- 10) ヒメハラクボアリヅカムシ *Batriscenellus (Batriscenellus) fallax* (Sharp, 1883)  
山地の森林落葉中などに見られ、個体数は少ない。  
<既知産地> 温湯 (渡辺, 1989)。温湯, 秋保町二口峡 (註1) (Nomura, 1991)  
<採集データ> 3♂, 大和町穂坂, 15. iv. 2013, O; 1♂, 仙台市太白区二口, 4. viii. 2013, O.
- 11) ニッポンアナバラアリヅカムシ *Batriscenellus (Nipponoscenellus) transformis* Nomura, 1991\*  
二口峡から記載された日本固有種である。前種と同様の山地森林に生息し、混生することもしばしばである。個体数は少なくない。  
<既知産地> 秋保町二口峡 (註1) (Nomura, 1991)

<採集データ> 5♂3♀, 石巻市八津, 18. ix. 2011, O.

12) ウエノツヤアリヅカムシ *Batriscenellus* (*Batriscenellinus*) *uenoi* Nomura, 1991

河川上流域の砂地や、溶岩台地のイタドリ群落中などにも生息する、きわめて多様な環境に適応している種で、日本本土各地に普通。宮城県からはすでに、Nomura (1991) が記録している。

<既知産地> 秋保町二口峡 (註1) (Nomura, 1991)

<採集データ> 1♂, 気仙沼市黒沢, 4. v. 2010, O.

※*Batriscenellus* sp.

<採集データ> 1♀, 川崎町峩々温泉, 26. vi. 2010, O; 2♀, 同上, 2. vii. 2010, O; 2♀, 仙台市太白区二口, 6. v. 2012, O.

13) モモコブアリヅカムシ *Physomerinus predator* (Sharp, 1883) (図1A) \*

河口などの草原の落葉中に生息する。産地での個体数は多い。本州、四国、九州、屋久島から記録されている。野村 (2009) によると、本種の本州における北限はこれまで、新潟県～茨城県であったため、今回、北限の更新となる。

<採集データ> 4♂, 仙台市若林区井戸浦 (灯火), 22. viii. 2010, O

14) ハケスネアリヅカムシ *Batriscenaulax modestus* (Sharp, 1874) \*

*B. furuhatai* (Kubota) は異名。本州、四国、九州に産し、森林落葉中に普通に見られる。これまでの北限は埼玉県であったため、今回大幅な北限の更新となる。

<採集データ> 1♂, 歌津町石泉, 1. x. 2011, O.

15) アナズアリヅカムシ *Batrisceniola dissimilis* (Sharp, 1874)

本州、四国の森林落葉中にきわめて普通に産する。♂成虫に後翅の長翅型と短翅型があり、左右非対称の雄交尾器にも右向き、左向きの2型がみられる。

<既知産地> 奥新川, 泉ヶ岳, 二口峠, 魚取沼 (渡辺, 1989); 秋保町二口峡 (註1) (Nomura, 1991)

<採集データ> 1♂2♀, 川崎町峩々温泉, 26. vi. 2010, O; 1♀, 仙台市太白区二口, 11. vii. 2010, O; 1♂1♀, 同上, 6. v. 2012, O; 1♀, 同上, 27. v. 2012, O.

オノヒゲアリヅカムシ上族 *Goniaceritae*

16) *Takaorites* sp. 1 \*

本属は地下性の種を多く含むが、ネジレヒゲアリヅカムシ *T. torticornis* Jeannel のように、森林落葉中に生息するものも含まれる。本種はネジレヒゲによく似るが、♂の触角の中途が曲がることなく、まっすぐである点で区別される。

<採集データ> 1♂, 仙台市太白区二口, 30. iv. 2012, O; 2♀, 同上, 6. v. 2013, O.

17) スベマルムネアリヅカムシ *Triomicrus sublaevis* Raffray, 1909

東北地方から東日本各地、西日本では高所、九州山地、甌島に分布する。マルムネに似るが、前胸背背面の点刻が細かく、滑面に近いのでこの名がある。本県からはすでに秋保町二口 (註1) から記録されている (Löbl *et al.*, 1998)。なお、同じ論文で、本県からは、トガリマルムネ *T. sternalis* Löbl *et al.*, マルムネ *T. protervus* (Sharp) の2種も記録されている。

<既知産地> 秋保町二口峡 (Löbl *et al.*, 1998)

<採集データ> 1♀, 蔵王賽の磧, 4. vi. 2015, Y.

18) ダイコクアリヅカムシ *Rybaxis princeps* (Sharp, 1874) (図1B, C)

本種は大型で頑丈なアリヅカムシで、属内では日本最大である。本属は日本産6既知種 (柴田ほか, 2013) の他、未記載種も数種が見つまっている。本種は、1) 身体が大型であり、2) ♂の中脚脛節先端に強いくびれがあり、3) ♂交尾器は頑丈で、一対の角状突起 (側片?) を中央片先端にそなえることで、他の種から明確に区別できる。

下記に示すように、宮城県からはすでに記録されており (渡辺, 1989)、かなり以前から宮城県のレッドデータブックに掲載されていて、いつの頃からか、「絶滅種」という取り扱いとなった。日本全国に分布し、東北地方でも稀でない本種が「絶滅種」とされることに違和感は禁じ得なかったが、手元に証拠となる記録や標本がなかったため、これまで反論することができなかった。今回、宮城県内の複数の地点から尾崎氏が本種を採集したことにより、本種が絶滅種でないことが確認された。

本種の生息環境を特定することは難しく、落葉広葉樹林の落ち葉の中から発見されることもあれば、林道わきのススキの根株から見つかったりもする。原生林のような一次的な自然環境よりもむしろ、多少人手の入った二次的環境の方を好む傾向にある。

本種に好蟻性が認められるか否かについては意

見が分かっている。阪口浩平著「世界の昆虫」では、本種は「クリイロアリヅカムシ」の和名で、「この亜科（註1）の中で最もアリとの結びつきの深い種の一つ」として紹介されているが、その根拠は示されておらず、その後のアリとの共生例も認められていない。

＜既知産地＞仙台市国見峠（渡辺，1989）。

＜採集データ＞1♀，歌津町管の浜，1. x. 2011, O；1♂，東和町海無沢，3. v. 2010, O；1♀，鹿島台町貝抜沢，18. ix. 2011, O；3♂，歌津町石泉，1. v. 2011, O。

19) ナミエンマアリヅカムシ *Trissemus alienus* (Sharp, 1874) (図1D)

河川流域の砂地などに見られ、極めて普通。中型で、♂の触角と中脚、後脚に顕著な性的特徴が現れる。

＜既知産地＞遠刈田，苫地，白沼（渡辺，1989）。

＜採集データ＞3♂5♀，鳴瀬町久瀬，23. vii. 2011, O；1♂1♀，本吉町滝沢，18. vii. 2010, O；1♂4♀，女川町御前浜，13. x. 2013, O。

20) *Trissemus* sp. 1\*

ナミエンマよりもやや大きい。ナミエンマと同様、♂触角第6節が卵型に膨大し、紛らわしいが、本種では触角の先端2節が球桿部を形成する（ナミエンマでは第11節のみ）。また、♂中脚脛節末端部には、単純な形の蹴爪を生じている。

＜採集データ＞2♂1♀，亘理町小城内，31. vii. 2011, O；1♂，栗駒町小手川，3. vii. 2010, O；1♂，唐桑町青野沢川，27. viii. 2011, O。

※*Trissemus* sp.

＜採集データ＞5♀，大和町升沢，5. ix. 2010, O；1♀，川崎町峯々温泉，10. vii. 2010, O；1♀，仙台市若林区中河原緑地，15. vi. 2011, O；1♀，仙台市若林区井戸浦，22. viii. 2010, 郷原匡史・町田禎之採集。

21) アシベアリヅカムシ *Prosthecarthron sauteri* Raffray, 1914\*

河川の河口付近の川岸に生息する種で、「河口のアリヅカムシ3点セット」の中では最も水辺に近いエリアに生息する。本州以南の日本全土に広くみられるが、本州では千葉県、神奈川県以南でしか得られていなかった（野村，2009）ため、今回大幅な北限更新となる。

＜採集データ＞3♂，仙台市若林区井戸浦（灯火），22. viii. 2010, O。

22) サムライオノヒゲアリヅカムシ *Bryaxis samurai* Löbl *et al.*, 1998 (図1E)\*

やや大型のオノヒゲアリヅカムシで、♂の触角第2節がきわめて大きい卵型に膨大する。関東北部から東北地方にかけて分布し、山地～低山地の広葉樹林に生息する。

＜採集データ＞1♂，川崎町峯々温泉，26. vi. 2010, O。

ヒゲナガアリヅカムシ上族 *Pselaphitae*

23) ホソクシヒゲアリヅカムシ *Ctenisodes discedens* (Sharp, 1883) (図1F)\*

中型細身のアリヅカムシで、やや乾燥気味の土壌中に見られることが多い。国内での分布はあまり詳しく調べられていないが、本州、九州、粟島、佐渡、対馬から記録されている。前述のハネカクシ談話会ホームページによると、山形、福島両県からも記録されている。

＜採集データ＞1♀，鹿島台町貝抜沢，19. ix. 2011, O；2♂1♀，津山町石見，2. xi. 2013, O。

24) スジバネアリヅカムシ *Odontalgus masaoi* Arai *et* Nomura, 2003 (図1G)\*

関東平野や京都府内などから記録されているが、分布は局限される。生息環境は、草丈の低い植物がまばらに生えるような砂地の河原などである。今回大幅な北限の更新となった。

＜採集データ＞1♀，大衡町牛野ダム，14. x. 2013, O。

25) ヒゲプトエクボアリヅカムシ *Raphitreus speratus* (Sharp, 1874)\*

福島県からはすでに記録されている。本州、四国、九州に分布する。今回の記録はおそらく北限の更新と思われる。主に朽木や倒木の樹皮下から採集されており、落葉中から採集されることはあまりない。

＜採集データ＞1♀，小野田町蓬莱山，2. x. 2011, O。

26) アシナガアリヅカムシ *Labomimus reitteri* Sharp, 1883

非常に大型のアリヅカムシで、本州のほぼ東半部に分布し、個体数は多い。♂の特徴は後類部（postgena）に現れるが、突出やくぼみが小さく顕

註1：当時の分類で、別亜科であったヒゲプトアリヅカムシ類を除く他のアリヅカムシ類すべてを指す。

註2：「秋保町二口峡」はその後の市町村合併により、仙台市太白区に編入された。

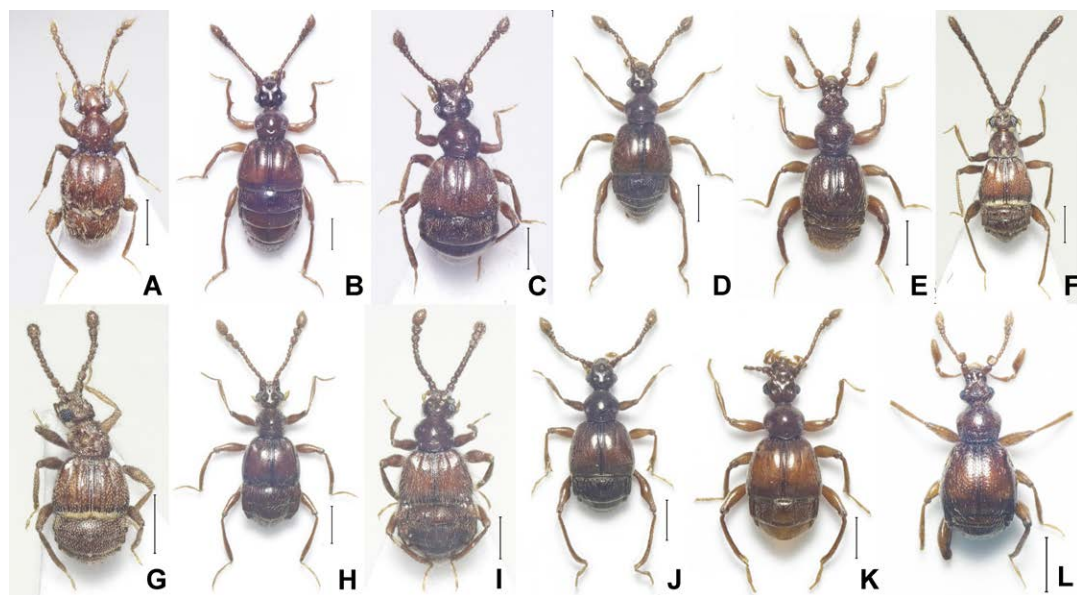


図1. 東北地方で採集されたアリヅカムシ。A-I: 宮城県産; J-L: 岩手県産。A: モモコブアリヅカムシ♂; B: ダイコクアリヅカムシ♂; C: 同左♀; D: ナミエンマアリヅカムシ; E: サムライオノヒゲアリヅカムシ♂; F: ホソクシヒゲアリヅカムシ♂; G: スジバネアリヅカムシ♀; H: *Tyroses* sp. 1♂; I: *Tyrus* sp. 1♀; J: ナミエンマアリヅカムシ?♂; K: フタフシエンマアリヅカムシ♂; L: *Bryaxis* sp.♂.

著ではない。本属の日本産種は、本種と *L. shibatai* オオアシナガ (シバタアシナガ) の2種が知られるが、西日本から南西諸島にかけて、未記載の数が知られている。

<既知産地> かもしか温泉, 蔵王山, 駒の湯。

<採集データ> 1♀, 仙台市太白区二口, 26. vi. 2010, O.

27) ミカドオトゲアリヅカムシ *Lasinus mikado* Bekchiev et al., 2013

前種と並ぶ大型のアリヅカムシで、最近まで、オトゲアリヅカムシ *L. spinosus* と混同されていたり、“*L. sp. 1*”として記録されていた。本種は Bekchiev et al. (2013) によって、箱根宮の下などから記載され、野村 (2014) によって既知記録、分布などが整理された。その結果、本種は、北海道、本州、四国および周辺島嶼に広く分布することが明らかになった。宮城県からは以下の通りすでに記録されている。近似種のヤマオトゲアリヅカムシ *L. monticola* は、野村 (2014) では記録が拾われていないが、渡辺 (1989) がすでに記録している。

<既知産地> 砥石沢, 奥新川 (渡辺, 1989) “オトゲアリヅカムシ *Lasinus spinosus* Sharp”; 秋保町二口峡 (註2) (Bekchiev et al., 2013; 野村, 2014)。

<採集データ> 1♀, 石巻市入津, 18. ix. 2011, O;

2♂, 歌津町石泉, 1. x. 2011, O.

28) *Tyroses* sp. 1 (図1H) \*

本属はこれまで日本からはあまり知られていない属であるが、亀澤・野村 (2012) が東京都から記録した (奥多摩町日原-石山-一人形山) のを皮切りに、岐阜県からも野村・亀澤 (2016) が記録している (郡上市八幡町那比)。コケアリヅカムシ属 *Tyrus* に似るが、やや小型で、腹部第4節背板の正中部に、縦の隆条がない (*Tyrus* にはある) ことで、明確に区別できる。山地の自然度の高い広葉樹林に生息するが個体数は少なく、珍品に属する。岐阜県のもは、他よりも明確に小型なので、東京、宮城のものとは別種かもしれない。

<採集データ> 1♂2♀, 大和町大倉山, 7. xi. 2010, O; 1♀, 唐桑町青野沢川, 8. x. 2011, O.

29) *Tyrus* sp. 1 (図1I) \*

本属は旧北区に広く分布する中型のアリヅカムシで、日本からはコケアリヅカムシ *T. japonicus* が本州、九州から知られている (柴田ほか, 2013)。本種 (*T. sp. 1*) は、コケアリヅカムシの近似種で、日本本土各地から広く知られており、場合によってはコケアリヅカムシより普通である。本種は雌雄ともに触角がコケアリヅカよりもやや短く、第3-8節の各節がすべてタテヨコの径が等しい球形

か、やや横長である（コケアリヅカではやや縦長の卵形）。♂交尾器は、どちらも左右非対称で互いによく似るが、本種の方がより縦長で、中央片の基部カプセルが短い。

＜採集データ＞1♀，女川町御前浜，9. x. 2011, O.

### 3. 宮城県産アリヅカムシ目録

以下に宮城県下から記録されたアリヅカムシの種目録を掲載する。出典は以下の通り、括弧内の数字で示す：(1) 渡辺 (1989)；(2) Nomura (1991)；(3) Nomura (1997)；(4) Löbl *et al.* (1998a)；(5) Löbl *et al.* (1998b)；(6) Bekchiev *et al.* (2013)；(7) 野村 (2014)；(8) 本報。また、出典の中での学名表示を“ ”内に、和名表示を「」カッコ内に表示した（いずれも本報と異なる場合のみ）。

ムネトゲアリヅカムシ上族 *Batrisitae*

- 1) エグリチイロアリヅカムシ *Batrisis politus* Sharp, 1883 (1) “*Batristilbus politus* (Sharp)”.
- 2) タカオトゲアリヅカムシ *Batrisodes (Excavodes) dorsalis* Jeannel, 1958 (1).
- 3) アラメトゲアリヅカムシ *B. (E.) stipes* (Sharp, 1874) (8).
- 4) ナガムネトゲアリヅカムシ *Batrisodellus longulus* Jeannel, 1958 (1); (8).
- 5) ナスヒゲブトムネトゲアリヅカムシ *Petaloscapus nasutus* Jeannel, 1958 (1) “*Petaloscapus ornatus* (Sharp)”.
- 6) ニセヒゲブトムネトゲアリヅカムシ *Petaloscapus shirokanensis* Nomura, 2017 (8).
- 7) フタアナムネトゲアリヅカムシ *Coryphomodes dionysius* Schaufuss, 1888 (1) “*Coryphomodes spinicollis* (Sharp)”；(8).
- 8) ヒゲボソムネトゲアリヅカムシ? *Tribasodes longicornis* (Sharp, 1883)? (1) “*Tribasodes longicornis* (Sharp)”；(8).
- 9) ガロアフサヒゲアリヅカムシ *Trisinus galloisi* (Jeannel, 1958) (8).
- 10) ラフレイフサヒゲアリヅカムシ *T. raffrayi* (Jeannel, 1958) (8).
- 11) アズマフサヒゲアリヅカムシ *T. tenuiformis* (Nomura, 1991) (2) 秋保町二口峡（前章註1参照）をタイプ産地とする種で、原記載以降、追加記録がない。
- 12) ホソハラクボアリヅカムシ *Batriscenellus (Batriscenellus) fragilis* (Sharp, 1883) (8).
- 13) ヒメハラクボアリヅカムシ *B. (B.) fallax* (Sharp, 1883) (1) (2) (8).
- 14) ニッポンアナバラアリヅカムシ *B. (Nipponoscenellus) transformis* Nomura, 1991 (2); (8).
- 15) ウエノツヤアリヅカムシ *B. (Batriscenellinus) uenoi* Nomura, 1991 秋保町二口峡（前章註1参照）(2).
- 16) モモコブアリヅカムシ *Physomerinus predator* (Sharp, 1883) (8).
- 17) ハケスネアリヅカムシ *Batriscenaulax modestus* (Sharp, 1874) (8).
- 18) アナズアリヅカムシ *Batrisцениola dissimilis* (Sharp, 1874) (1) 「アナアリヅカムシ」；(2); (8).

オノヒゲアリヅカムシ上族 *Goniaceritae*

- 19) *Takaorites* sp. 1 (8).
- 20) スベマルムネアリヅカムシ *Triomicrus sublaevis* Raffray, 1909 蔵王山，駒の湯 (1); 秋保町二口峡（前章註1参照）(4); (6).
- 21) マルムネアリヅカムシ *T. protervus* (Sharp, 1874) 蔵王 (1) *T. galloisi* Jeannel は異名；秋保町二口峡（前章註1参照），蔵王町蔵王，志津川町（現南三陸町）戸倉荒町，津山町（現登米市津島町）横山，歌津町（現南三陸町歌津）葦の浜。
- 22) トガリマルムネアリヅカムシ *T. sternalis* Löbl *et al.*, 1998 蔵王町蔵王，栗駒町駒の湯 (4).
- 23) ダイコクアリヅカムシ *Rybaxis princeps* (Sharp, 1874) (1); (8).
- 24) ナミエンマアリヅカムシ *Trissemus alienus* (Sharp, 1874) (1); (8).
- 25) *T.* sp. 1 (8).
- 26) アシベアリヅカムシ *Prosthecarthron sauteri* Raffray, 1914 (8).
- 27) サムライオノヒゲアリヅカムシ *Bryaxis samurai* Löbl *et al.*, 1998 (8).

ヒゲナガアリヅカムシ上族 *Pselaphitae*

- 28) ホソクシヒゲアリヅカムシ *Ctenisodes discedens* (Sharp, 1883) (8).
- 29) スジバネアリヅカムシ *Odontalgus masaoi* Arai *et* Nomura, 2003 (8).
- 30) ヒゲブトエクボアリヅカムシ *Raphitreus speratus* (Sharp, 1874) (8).
- 31) アシナガアリヅカムシ *Labomimus reitteri* Sharp, 1883 (1); (8).
- 32) ミカドオトゲアリヅカムシ *Lasinus mikado* Bekchiev *et al.*, 2013 (1) “*Lasinus spinosus* Sharp” 「オトゲアリヅカムシ」 (6); (7); (8).
- 33) ヤマオトゲアリヅカムシ *L. monticola* K.

Sawada, 1962 (1) 「ヤマトオトゲアリヅカムシ」

34) *Tyrodos* sp. 1 (8).

35) *Tyrus* sp. 1 (8).

ヒゲブトアリヅカムシ上族 *Clavigeritae*

36) *Diartiger fossulatus fossulatus* Sharp, 1883 秋保 (1) 「コヤマヒゲブトアリヅカムシ」; (3) ((1)と同じ標本の再録) .

#### 4. 青森県, 岩手県, 秋田県からのアリヅカムシの記録

##### (1) 青森県

1) マルムネアリヅカムシ *Triomicrus protervus* (Sharp, 1874)

本種は東北地方全県下から記録がある (Löbl *et al.*, 1998).

<採集データ> 1♂, 西目屋村津軽峠, 19. x. 2014, I.

##### (2) 岩手県

1) アナズアリヅカムシ *Batrisceniola dissimilis* (Sharp, 1874)

本種の岩手県からの記録は, 門馬 (早池峰山麓), 河原坊が挙げられている (Nomura, 1991).

<採集データ> 1♂, 葛巻町江刈, 5. vi. 2014, I.

2) マルムネアリヅカムシ *Triomicrus protervus* (Sharp, 1874)

岩手県からはすでに記録されている (青森県の本種の項参照).

<採集データ> 1♂, 早池峰山薬師岳, 3. vii. 2015, Y.

3) ナミエンマアリヅカムシ? *Trissemus alienus* (Sharp, 1874)? (図1J)

本種と近似種との関係については非常に難しい問題が横たわっている. 本種は本州, 四国, 九州に広く分布し, きわめて普通の種であるが, 非常に近似の種としてエゾエンマアリヅカムシ *T. pseudalienus* (柴田ほか, 2013) が知られる. エゾエンマは Kurbatov (1990) によって, 千島列島国後島から記載され, その後, 北海道渡島大島からも記録された. 柴田ほか (2013) では, 他に樺太, 本州にも分布することになっている. しかし, ナミエンマとエゾエンマとの区別は非常に軽微であって, 北海道産のものはエゾエンマであるとしても, 東北地方北部のものは, どちらともつかない中間的な形質を有する. エゾエンマがナミエン

マのシノニムである可能性も捨てきれない. したがってここでは岩手県産の個体をナミエンマと断定することも, エゾエンマと断定することもできず, 非常に中途半端な書き方にならざるを得ない. 東北地方各地の個体を多数集めて検討することによって初めて確信的な答えが得られると思われる.

<採集データ> 2♂, 大船渡市三陸町越喜来河内, 16. viii. 2013, 稲垣政志採集.

4) フタフシエンマアリヅカムシ *Trissemus mundus* (Sharp, 1874) (図1K)

本種はこれまで本州, 九州から記録されているが, 主に西日本から知られるものであり, 東北地方からの記録は初めてと思われる. 森林土壌から採集されることはなく, 草原の落葉中に生息するものと思われる.

<採集データ> 1♂, 大船渡市三陸町越喜来河内, 16. viii. 2013, 稲垣政志採集.

5) *Bryaxis* sp. 1 (図1L)

日本産のオノヒゲアリヅカムシ属 *Bryaxis* は, アリヅカムシの属としては格段に種数が多く, 柴田ほか (2013) では 34 種がリストアップされている. 日本のオノヒゲをまとめた Löbl *et al.* (1998b) では, 岩手県だけで 5 種が記録されており, 他の東北 5 県からは全く記録されていない. その理由は, A. Smetana 博士が, 1991 年に日本を訪れ, 各地を旅行された際に, 岩手県の早池峰山周辺で精力的にアリヅカムシ類を採集され, その材料を元に, Löbl 博士が多数の種を記載したためである. このように既知記録は少ないが, 福島県のリストでは何と 17 種, 山形県でも 9 種のオノヒゲがリストアップされている. 他の 4 県でもそれに匹敵する種数が眠っているであろうことは想像に難くない. 未記載種も多く含まれる.

本種は中型の明確な未記載種で, ♂の触角第 2 節が特異な形に膨大することで, 他から容易に区別できる. 尾瀬小至仏山の山頂部 (標高 2,150 m) からも採集され, 関東北部から東北南部にかけては 2000 m 前後の高標高地から得られている.

<採集データ> 2♂, 早池峰山薬師岳, 3. vii. 2015, Y.

6) アシナガアリヅカムシ *Labomimus reitteri* Sharp, 1883

東北地方ではブナ帯の落葉中に普通に見られる.

<採集データ> 1♂, 葛巻町葛巻, 5. vi. 2014, I.

## (3) 秋田県

1) マルムネアリヅカムシ *Triomicrus protervus* (Sharp, 1874)

本県からはすでに記録されている（青森県の本種の項参照）。

<採集データ> 1♂, 矢島町烏海山, 14. ix. 2014, O.

## 4. 総合考察

今回、宮城県から35種のアリヅカムシをリストアップしたが、東北地方のアリヅカムシ相はまだまだ未解明であるといわざるを得ない。今回ある程度の種数が得られた宮城県にしても、隣県の山形、福島とはかなりの開きがあり、地元研究者の根気強い努力が求められる。

そのような中で今回、これまで絶滅種とされていたダイコクアリヅカムシが再発見？されたことは、快挙というよりも、おかしな出来事であった。しかしアリヅカムシ相の解明が進んだことは喜ぶべきことである。解明がさらに進めば、ダイコクアリヅカムシはそんなに稀なものではないことが分かってくるはずである。情報不足の昆虫種は、ただ珍しい、絶滅したのではないかと片づける前に、正しい評価を与えるための努力が求められる。

生息環境別に見てみると、これまでに記録された種の多くは、森林性または河川の周辺に見られるもので、灯火に集まるものが多い。今回初めて見いだされたスジバネアリヅカムシも河川の流域から多く発見されている。一方「河口のアリヅカムシ3点セット」も2種（モモコブ、アシベ）は今回すでに記録されたので、残りは1種（ツヤママルムネ）である。また今回、枯木や樹皮下に見られる種もいくらか記録された。*Tyrus* sp. 1, *Tyrodus* sp. 1, ヒゲブトエクボなどが該当する。つまり、これまでに記録されているものは普通種がほとんどであるが、生息環境としてはかなりまんべんなく得られている。

一つだけ残念な点は、本県産のオノヒゲアリヅカムシ類の記録が、サムライ1種しかないことであろう。岩手県の *Bryaxis* sp. 1 の項で記したように、岩手県では既知種5種、福島県では17種、山形県では9種が記録されている。であるのに、これらと隣接する宮城県でわずか1種というのはあまりに寂しい。オノヒゲアリヅカムシだけが多数採取される方

法というものは特にないので、全体のサンプル数を増やすということがここでは必要とされる。

## 謝辞

本研究につき、貴重な標本を筆者にご恵与くださった、秋田県の尾崎俊寛氏、三重県の横関秀行氏、大阪府の伊藤主計氏に厚く御礼申し上げる。

## 引用文献

- Bekchiev, R., P. Hlaváč and S. Nomura, 2013. A taxonomic revision of Tyrini of the Oriental region.V. Revision of the genus *Lasinus* Sharp, 1874 (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). *ZooKeys*, 340: 21–42 (doi: 10.3897/zookeys.340.5980).
- Löbl, I., S. A. Kurbatov and S. Nomura, 1998a. A revision of the genus *Triomicrus* Sharp (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). *Bulletin of the National Science Museum, Series A (Zoology)*, 24: 69–105.
- Löbl, I., S. A. Kurbatov and S. Nomura, 1998b. On the Japanese species of *Bryaxis* (Coleoptera: Staphylinidae: Pselaphinae), with notes on allied genera and on endoskeletal polymorphism. *Species Diversity, Sapporo*, 3: 219–269.
- Nomura, S., 1991. Systematic study on the genus *Batrisoplisus* and its allied genera from Japan (Coleoptera, Pselaphidae). *Esakia*, Fukuoka, (30): 1–462.
- Nomura, S., 1997. A systematic revision of the Clavigerine genus *Diartiger* Sharp from East Asia (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). *Esakia*, Fukuoka, (37): 77–110.
- Nomura, S., 2017. Two new species of the genus *Petaloscapus* Jeannel (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae) from Kanto to Chūbu districts, eastern Honshu, Japan. *Elytra, New Series*, 7: 277–286.
- 亀澤 洋・野村周平, 2012. 東京都から採集されたアリヅカムシの記録. *神奈川虫報*, (178): 1–19.
- 阪口浩平, 1981. アリの客となるアリヅカムシとハネカクシ. *図説世界の昆虫*, 5 ユーラシア編, pp. 106–109, 保育社, 大阪.
- 柴田泰利・丸山宗利・保科英人・岸本年郎・直海俊一郎・野村周平・Volker Puthz・島田 孝・渡辺泰明・山本周平, 2013. 日本産ハネカクシ科総目録. 九州大学総合研究博物館研究報告, (11): 69–218.
- 野村周平, 2009. アリヅカムシの採集と生息環境 4, 河口のアリヅカムシ3点セット. *月刊むし* (458): 26–29.
- 野村周平, 2010. ヒゲブトムネトゲアリヅカムシはいかにして誤同定されたのか? ハネカクシ談話会ニュース, (37): 1–3
- 野村周平, 2014. 日本産オトゲアリヅカムシ属 (*Lasinus* Sharp, 1874: Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae) の分類学的ノート. さやばねニューシリーズ, (16): 1–12.
- 野村周平・亀澤 洋, 2016. 岐阜県のアリヅカムシに関する記録と考察. さやばねニューシリーズ, (21): 18–25.
- 渡辺 徳, 1989. 宮城県の甲虫. 日本鞘翅学会刊, 364 pp., 笹氣印刷出版, 仙台市.

(2018年1月18日受領, 2018年3月5日受理)